

元気 いっぱい!



▲釘の箱詰めをする生徒たち。すき間だらけにならないように気をつけて詰めたら、計量の担当者へ渡します。

松原分校中学部 1 年 現場体験学習

赤崎小学校そばに校舎がある松原分校は、昭和 38 年に市内の特殊学級を統合して開園し（当時の名称は小野田養護学園）、現在では小学部に 13 人、中学部に 11 人の児童・生徒が通っています。

10 月 18 日からの 4 日間、将来に役立つ社会生活を体験するため、中学部 1 年生の 5 人が、まつば園を訪れました。園生さんに混じって、青い帽子をかぶった生徒たちは、釘の箱詰め作業とウエス加工作業（油の掃除に使う雑巾づくり）に挑戦。園内の作業場は、「こっちにも製品を持ってきてね」「台車が通るから危ないよ」などと掛け声の飛び交う、活気あふれる職場です。大量の釘が目の前に運ばれると、われ先にと箱詰めをしていく生徒たち。「このような作業は初めてだけど、まだまだ続けてできるよ」と、立ちっぱなしの作業を気にかける様子もなく、園生さんの助言を受けながら、積極的に作業に参加していました。

夢 いっぱい!

小学生の
ドッジボールチーム
「厚狭キューピーズ」



『厚狭キューピーズ』は厚狭、出合小学校の児童を中心とした小学生 3 4 人からなるドッジボールチームです。結成 5 年目を迎えた今年、7 月に行われた山口県大会では 4 位と、惜しくも夏の全国大会への切符はのがしたものの、所属するリーグの新人戦で優勝するなど多くの大会で好成績をおさめています。

このチームは、今から 6 年前、当時厚狭小学校勤務だった属千賀子先生（現監督）の呼びかけで結成

ドッジボールは 5 分間で完結する感動のドラマなのです

された元祖『キューピーズ』がその前身。テレビでたまたま見たドッジボールの全国大会で、子どもたちが一丸となって一つの目標に向かう姿に感動し、「一年限りのつもりで当時の 6 年生と大会に参加してみたいです。」と昔を振り返る属先生にとっても、今なお全国大会出場は大きな目標です。

「子どもの応援をしているうちに、すっかりドッジボールにとりつかれました。」と語る現代表兼コーチの重村さんは、既に卒業したチーム第 1 期生のお父さん。「ドッジボールは 1 セット 5 分。この 5 分間に様々なドラマが凝縮されているんです。」というその言葉どおり、練習ではスピード感あふれる攻防が続きました。

「来年 2 月に開催される県大会では優勝して、春の全国大会に出場したいです。」と、最後の大会に向け意気込みを話すキャプテンの竹中亮平くん。悲願達成に向け、練習にも一層熱が入ります。

ローマ神話の「キューピッド」がモチーフの「キューピー」。次回の県大会では、見事その矢で勝利の女神のハートを射抜いてほしいものです。